

教育最前線

連載 34

●(一社)日本二輪車普及安全協会 四国ブロック

Hondaライディングトレーナーを活用して 高齢者の二輪車事故防止の教育を展開

「ホンダライディングトレーナー(以下、RT)」は、ライダーの危険予測能力の向上に役立つ二輪車安全運転教育機器のさらなる普及を目的にホンダが開発。市街地走行やツーリング走行など様々な交通場面での危険予測トレーニングができる。

(二社)日本二輪車普及安全協会 四国ブロックではこのRTを導入し、地域の公民館やイベント会場などで高齢ライダー(65歳以上)への安全運転教育を展開している。同協会四国ブロック統括事務局長の出口誠一さんは「公共交通機関が充実していない地域では、高齢でもバイクが生活の足となっている方が少なくありません。しかし、そうした方々への安全運転教育の機会が少ないのが実情です。実車による実技講習を高齢者の皆さんに行おうとしても、遠方な方もいて、1カ所に集まっていたり、難しさや実技の際の転倒などのリスクから実施が難しい状況です。そこで、私たちが各地域に出向



き、RTを使って危険感受性を高めてもらい、他の方の運転を見ながら自分の運転を見直す機会にしてみたい」と話す。安全協会とも連携しながら、講習会を開催しています」と話す。

昨年8月に愛媛県松山市生石地区高齢者講習会、10月に同南高井地区高齢者講習会を愛媛県二輪車指導員が実施した。生石地区高齢者講習会には高齢者49名が集まり、代表者数名がRTを体験。南高井地区高齢者講習会では参加した11名全員がRTを体験したという。両会場とも、体験者の運転状況は大型のスクリーンに映し出される。体験が終わると、RTの再生機能を使って各々の運転を振り返る。事故に遭った場面、ヒヤリハットした場面では普段、自分



愛媛県松山市の生石地区と南高井地区でのRTによる高齢者講習の様子。指導のための講習を受けた愛媛県二輪車指導員3名が講師役として活動している



参加者一人ひとりに考えてもらう。最後に、講師役の愛媛県二輪車指導員が事故を防止するために必要な危険予測のポイントをアドバイスした。

この他、高知県警察本部で10月に開催された「シニア交通安全ふれあいフェスタ 2014 E Kochi」にもRTを展示し、来場する高齢者に体験してもらい、簡単な講習会を実施している。

「私たちの話を真剣に聞いていただけ、高齢者の皆さんにも好評でした。安全に様々な交通場面を体験できるのがRTのメリットです。その体験によって、若い頃との感覚や反応の違いに気づいてほしいと思います」と出口さんはいふ。同協会四国ブロックでは、平成27年度もRTによる高齢者講習会を開催していく考えだ。

高知県警察本部が主催する「シニア交通安全ふれあいフェスタ 2014 in Kochi」にRTを展示し、指導を行った

TOPICS 1

●Hondaの福祉関連安全運転教育プログラム

福祉施設や病院等で送迎を担うドライバーへの安全運転教育を普及するために

ホンダは、介助・介護などの配慮を必要とする送迎サービスが増加する中、サービスを提供する方々が、送迎中の安全運転ノウハウや知識を身につけることができる「移送安全運転教育プログラム」を開発し、全国の交通安全センターで提供している。送迎車両に同乗する利用者への思いやりや配慮の大切さを理解し、車両特性を意識した運転操作を身につけてもらうことが、このプログラムのねらいである。そして、より多くの福祉施設や病院等で活用していただくため、このプログラムの認知・理解向上を図ることを目的とした「視察・体験会」を各地で開催している。

交通安全センターレインボー埼玉では、バスや電車の利用が困難な方を対象にクルマを使って外出の支援を行っているNPO法人のインストラクター等、そして交通安全センターレインボー熊本では、福祉施設や病院で送迎を担当するドライバー等が参加した。視察・体験会では、参加者が実際にクルマに乗ってプログラムを体験。参加者からは「体験型だったので、自ら気づけていない部分に気づくことができたと」「利用者への配慮や事故予防につながると思う」という声がかかれた。また、鈴鹿サーキット交通安全セン

ターは昨年12月1日、介護老人保健施設せんけい苑(兵庫県洲本市)で送迎管理者と送迎ドライバー20名を対象に体験会を実施。同施設を運営する洲本伊月病院はホンダの「リハビリテーション向け運転能力評価サポートソフト」を導入しており、それがきっかけでこのプログラムにも関心を持ったという。この日は、インストラクターが同施設の送迎車両を使って正しい運転姿勢や死角を説明した



鈴鹿サーキット交通安全センターは介護老人保健施設せんけい苑の送迎管理者と送迎ドライバーを対象に体験会を実施



後、同乗者に負担をかけないブレーキやハンドルの操作、スムーズで安全なバック走行を指導した。参加者は「こうした講習を定期的に継続していくことはとても良いことだと感じました」と話す。

このように、ホンダは福祉に関わるドライバーの安全性確保に向けた教育機会の普及に向け、さらに力を入れていく考えだ。

※リハビリテーション向け運転能力評価サポートソフト=リハビリテーション中の方が、作業療法士などと一緒で四輪での運転復帰に向けて運転に対する評価・訓練をサポートするためのソフト。運転環境の模擬的な再現により、運転操作の手足の複合的動作を楽しみながら行うことができる。詳細は下記ホームページを参照。
http://www.honda.co.jp/simulator/safetynavi/rehabilitation.html

TOPICS 2 2014トラフィックセーフティ・フォーラム in 埼玉 安全・安心な未来の交通社会を目指した普及活動



開会の挨拶を述べる (株) レインボーモータースクールの永田春記代表取締役社長

昨年11月28日、埼玉会館小ホール(埼玉県さいたま市)で「2014トラフィックセーフティ・フォーラム in 埼玉」が開催された(主催:交通教育センターレインボー埼玉・和光)。このフォーラムは、交通安全活動に取り組む企業や団体を対象に事故防止の施策などの情報交換を目的に行われており、この日は企業・団体から312名が参加した。

開会にあたり、主催する(株)レインボーモータースクールの永田春記代表取締役社長と、来賓を代表して埼玉県警察本部の紙屋修三交通部参事官が挨拶を行った。

今年のテーマは「安全・安心な未来の交通社会を目指した普及活動」。交通事故防止活動の好事例として、2つの企業の安全担当者が発表を行った。

ポラス(株)経営企画部コンプライアンス室の藤原一博主任は、同社内で推進しているKYT(危険予測トレーニング)を用いた安全教育を紹介。同社では社内でKYTトレーナーを養成し、新入社員や新任マネージャーなどを対象に研修だけでなく、社員が任意に参加できる研修も

開催している。さらに、社員が地域の小学校に出向いてKYTによる交通安全指導を実施するなど、地域貢献にも活かしている。

また、(株)ドミノ・ピザジャパン Domino's Universityの高井龍哉シニアスペシャリストは、二輪・三輪スクーターで配送業務を担うアルバイトへの安全運転教育について説明。タブレット端末などを使って都合の良い時間に安全運転に必要な知識が学べる教育システムや、アルバイトが独り立ちするためのトレーニング、管理者(店長)を対象にした交通安全教育センターレインボー埼玉での指導者教育について紹介した。

そして事例発表の後は、損保ジャパン日本興亜リスクマネジメント(株)自動車リスクコンサルティング本部企画開発部の宮崎健太郎部長が「『自動車事故防止』の現状と今後の展望」というテーマで講演となった。企業内での事故削減のためにはPDCA(計画→実行→評価→改善)を繰り返すことが重要であると説いた。さらに、PDCAは体制強化(経営者の役割)と運用管理(管理責任者以下の役割)のそれぞれで行うことや、経営者の思いを伝える現場管理者のリーダーシップが効果を出すためのポイントであると述べた。

また、(株)ドミノ・ピザジャパン Domino's Universityの高井龍哉シニアスペシャリストは、二輪・三輪スクーターで配送業務を担うアルバイトへの安全運転教育について説明。タブレット端末などを使って都合の良い時間に安全運転に必要な知識が学べる教育システムや、アルバイトが独り立ちするためのトレーニング、管理者(店長)を対象にした交通安全教育センターレインボー埼玉での指導者教育について紹介した。

そして事例発表の後は、損保ジャパン日本興亜リスクマネジメント(株)自動車リスクコンサルティング本部企画開発部の宮崎健太郎部長が「『自動車事故防止』の現状と今後の展望」というテーマで講演となった。企業内での事故削減のためにはPDCA(計画→実行→評価→改善)を繰り返すことが重要であると説いた。さらに、PDCAは体制強化(経営者の役割)と運用管理(管理責任者以下の役割)のそれぞれで行うことや、経営者の思いを伝える現場管理者のリーダーシップが効果を出すためのポイントであると述べた。



損保ジャパン日本興亜リスクマネジメント(株)自動車リスクコンサルティング本部企画開発部の宮崎健太郎部長 (株)ドミノ・ピザジャパン Domino's Universityの高井龍哉シニアスペシャリスト ポラス(株)経営企画部コンプライアンス室の藤原一博主任

NEWS REVIEW

1 ● 2014年Honda安全運転普及本部 年末ご挨拶会 『事故ゼロのモビリティ社会』の実現に向けた取組みを強化



伊東孝紳・本田技研工業(株)代表取締役社長執行役員

昨年12月5日、Honda青山ビル(東京都港区)にて「2014年Honda安全運転普及本部年末ご挨拶会」が開催され、交通関係者約300名が参加した。

報告会では、伊東孝紳・本田技研工業(株)代表取締役社長執行役員が「Hondaは、お客様に喜んでいただける商品を万全な品質で提供することに注力しています。そして、私たちは安全と環境への取組みを最重要課題ととらえ、安全については『Safety for Everyone』というグローバルスローガンを定めました。その具現化のために『ヒト(安全教育)』『テクノロジー(安全技術)』『コミュニケーション(安全情報)』の3つの領域で、それぞれを進化させると同時に、相互の連携を図っています。安全技術をより幅広く製品に展開することにより、交通事故の減少や被害の軽減に寄与していく所存です。また、クルマを運転するのは人でありますから、お客様に機能

を正しく理解していただくことにも努め、『事故ゼロのモビリティ社会』の実現に向けた取組みを強化してまいります」と挨拶。

続いて、吉田宏樹・本田技研工業(株)安



倉田潤・警察庁交通局長

全運転普及本部事務局長が、2014年の安全運転普及活動の報告と今後の取組みについて映像を交えて紹介した。

最後に、来賓を代表して倉田潤・警察庁交通局長が挨拶。「幼児から高齢者まで、交通社会に参加するすべての人の安全をめざすという崇高な理念に基づく取組みに感銘を受けたところです。幅広い年齢層への参加体験型の実践教育を展開するなど、国民の交通安全意識の高揚に大きな成果をあげており、このような活動は警察としてもたいへん心強く感じています。今後も、先進性・独自性のある交通安全活動を引き続き推進していただきたい」と述べた。

2 ● バイク事故「零」を目指すライディング・スクール 1都3県の警察が合同で二輪車実技教室を開催



女性白バイ隊員が受講者一人ひとりの運転を見ながらアドバイスを行う

昨年12月23日、警視庁交通安全教育センター(東京都世田谷区)で、「バイク事故『零』を目指すライディング・スクール」が開催された。これは警視庁および神奈川県、埼玉県、千葉県各警察本部合同の二輪車実技教室である。

警視庁交通部交通総務課の林正己課長

代理は「東京都内では40～50歳代の中高年ライダーの死亡事故が増え、都内だけでなく隣接県に住んでいるライダーも事故の当事者となっています。そこで神奈川県、埼玉県、千葉県の各警察本部と合同でのスクールを企画しました。1都3県での合同開催は初めてです」と話す。

同スクールの受講資格は40～50歳代のライダーの他、二輪免許取得3年未満のライダ



一本橋では誰が最も「10秒」に近いタイムで通過できるか、受講者全員で競い合った

一、女性ライダー、スクーター利用者で、今回は86名が受講。指導は1都3県の女性白バイ隊員19名が担当した。

まず女性白バイ隊員が二輪車の正しい運転姿勢の模範を示し、その後、受講者はブレーキング、低速バランス、スラロームの3つの課題に取り組む。女性白バイ隊員が受講者の運転を見ながら、一人ひとりに合わせたアドバイスをを行った。「特に、中高年ライダーに現在の自分の運転技量を確認していただけるような基本的な内容にしています。中高年の方々が若い頃に比べ、バイク自体の性能は良くなっている一方で、皆さんの身体機能は低下しています。若い頃のイメージで運転していると危険であることを理解し、身体機能の低下を補うための運転を身につけてほしい」と林課長代理はいう。

神奈川県秦野市から参加した56歳の男性は「大型バイクに乗り換えて、1年ほどになります。自分の乗るバイクの特性を知っておきたいと思い、受講しました。急制動など、公道ではできない体験ができたことは、安全運転をする上で役立ちます」と感想を語った。

今回のスクールには、ゲストとしてフジテレビ・アナウンサーの大島由香里さんも参加。大島さんは開会式で、自身が二輪免許を取得したエピソードや、バイクを運転する魅力を披露したり、女性白バイ隊員とともにボディプロテクターの着用を受講者に呼びかけた。



フジテレビ・アナウンサーの大島由香里さん(写真左)と女性白バイ隊員によるトークショーも行われた